



Energy

エネルギー

藤原 弘達

エネルギー第二本部

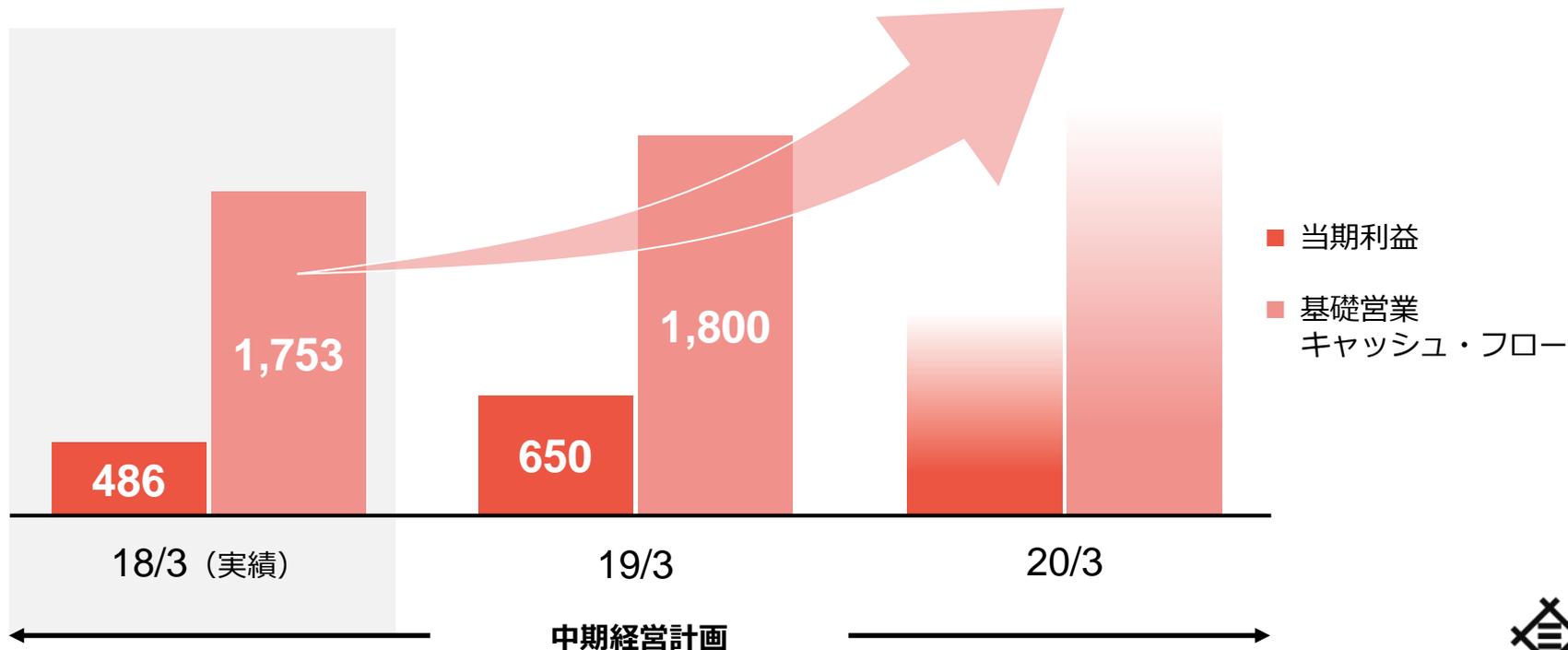
## 基本戦略

01 競争力ある資産ポートフォリオの構築

02 中～下流・エネルギーValue Chainの展開

## 定量目標 当期利益／基礎営業キャッシュ・フロー

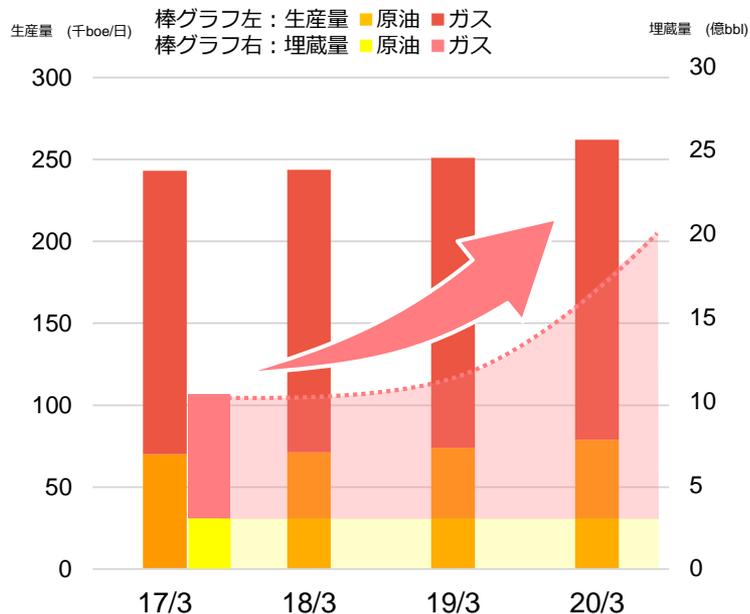
単位：億円



# 競争優位性 原油ガス持分権益生産量・埋蔵量・LNG生産能力

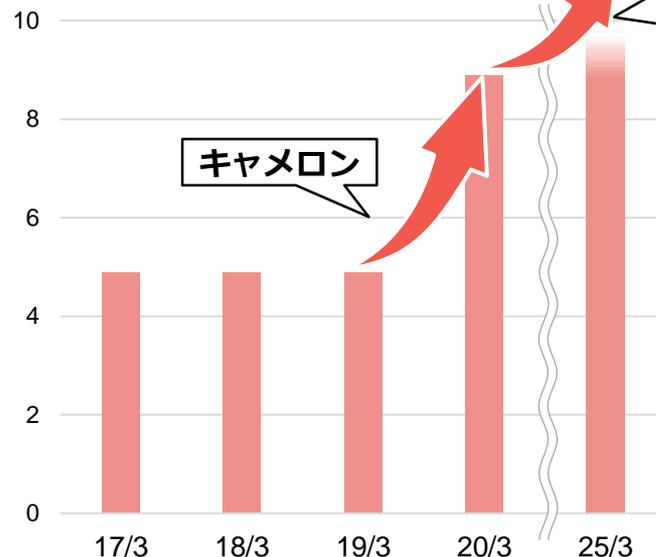
## 持分権益 生産量・埋蔵量

※埋蔵量はFID済みのプロジェクトのみ



## LNG持分生産能力

(百万トン)



モザンビーク  
サハリンII 拡張

キャメロン

## 環境認識

経済成長と人口増によるエネルギー需要の増加

### 化石燃料

主要な一次エネルギー源であり続ける

原油

需要が2030-40年に  
プラトーとなるシナリオも

ガス

長期的に堅調な  
需要伸長を見込む

### 非化石燃料/ 再生可能エネルギー

社会的ニーズ拡大  
コスト低下による普及

時間軸を意識した資産ポートフォリオ・マネジメント  
ガス事業の更なる拡充

再生可能・新エネルギーへの  
取り組み

# 1 競争力ある上流資産ポートフォリオの構築

E&P事業

## ◆ 豪州AWE社の買収

- ・ 資産ポートフォリオの拡充  
2P埋蔵量82MMBOE（17年12月）、生産量2.5MMBOE（18年見通し）
- ・ オペレーター機能獲得



## Waitsiaガス田

- ・ 2018年FID/2020生産開始予定(検証中)
- ・ 陸上ガス田で需要地/既存インフラに近く、価格競争力あり
- ・ 生産拡張や埋蔵量アップサイドの期待あり

E&P事業全体への  
波及効果・  
相互作用



# 1 競争力ある上流資産ポートフォリオの構築

LNG事業

## ◆ モザンビーク Area1

### 巨大な資源量

日本の天然ガス消費量の

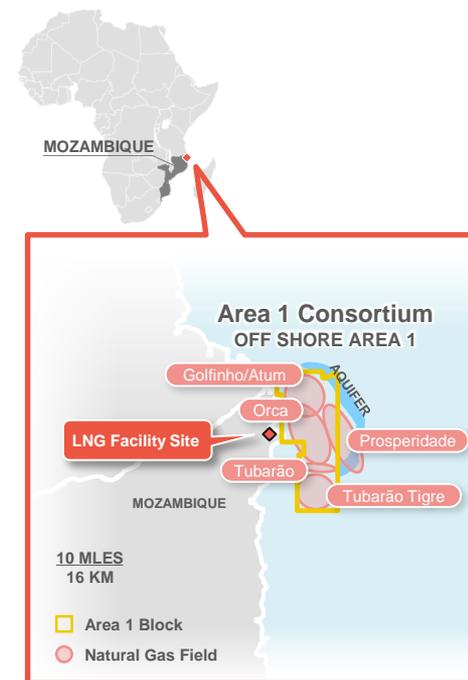
15年分以上に

相当する約75tcf

### 低いEntryコスト

探鉱段階から参画  
(約10年前)

- 年産1,200万トンで2020年代初頭生産開始予定、更なる拡張余地あり
- 長期的な安定供給と収益貢献を期待



## 2 中～下流・エネルギーValue Chainの展開

### ◆ キャメロンLNG

- 当社LNG取扱数量 **年間400万トン\*アップ**  
\*約1,200万世帯が1年間に使うガスの量
- 自社LNG船7隻を活用した**グローバル・トレーディング**



エネルギー  
Value Chain

# 今後のパイプラインプロジェクト

